

インプラント治療におけるデジタルトランスフォーメーション

Digital transformation in implantology



濱崎 順一 Junichi Hamazaki
日本臨床歯科 CAD/CAM 学会関西東海支部
デント・ラボラトリーオ (香川県高松市)

I. 緒言

当技工所は歯科医院内に併設されており、連携を取りシロナ社製の CT と CAD/CAM を用いてインプラント埋入位置の決定から最終補綴の完成までのシステムを構築している。今回は作業工程とユーザーが注意すべき点、最後に破損した最終補綴の修復症例を紹介したい。

II. 方法

工程

- CT 撮影と参考模型の印象を行い、CAD/CAM にて最終補綴の大きさや位置を設計し、インプラントの埋入位置を決定する。
- 決定した埋入位置情報を元にガイドステントを製作しそれを元に埋入手術を行う。
- 治癒期間を経てスキャンポストを立ててスキャンし最終補綴を設計、アバットに関してはスキャンポスト、スキャンボディが異なる為、スキャン時にチタンベースかアトランティスアバットを選択する必要がある。

最終補綴破損

2018年11月セットのチタンベースを用いた e.max 製スクリーリテイン型の最終補綴が2020年10月に破折、マテリアルをジルコニアに変更し再セットした。

III. 結果および考察

デジタルを用いたシステム構築には様々な問題が生じ試行錯誤を繰り返したが、現在の診療工程において大きな問題は発生しておらず、最終補綴セットまではほぼ無調整で行えている。

全てにおいて完全なマテリアルは存在しないが症例に合わせて最善の選択を行う必要がある。

なお、本研究発表に関して開示すべき利益相反関連事項はない。